

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム楽家生
(ユニット名)	グループホーム楽家生
所在地 (県・市町村名)	三重県鈴鹿市南玉垣町5470番地
記入者名 (管理者)	石木 明世
記入日	平成19年10月31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「理念」はあるが、職員への説明や、家族や地域の人々に理解してもらえない取り組みはしていない。	○ この外部評価をきっかけに、職員に理念の説明をした。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」はあるが、職員への説明や、家族や地域の人々に理解してもらえない取り組みはしていない。	○ この外部評価をきっかけに、職員に理念の説明をした。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「理念」はあるが、職員への説明や、家族や地域の人々に理解してもらえない取り組みはしていない。	○ 地域の人にもっと理解していただけるようはたらきかけを行う。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ゴミ捨てや散歩時に日常的な挨拶を交わすよう心がけている。 ・医師による健康教室を開催し、地域の広報で自治会に呼びかけを行い、参加してもらうことにより交流の場を設けている。	○ ・日常的に交流を続けていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・夏祭りや運動会など自治会などの行事に招待していただき参加している。	○ ・他の行事等で参加できる事があれば参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・高齢者向けの健康教室を開催し地域の方に参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・今回がはじめての外部評価である。	○	・カンファレンスを行い全体で検討していきたい。 ・評価のねらいや活動方法を職員が理解できるように取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議の中で自治会の方より運動会や祭りへの参加を勧めてもらい、自治会から見た施設への評価を聞くことができた。 ・施設内の見学や日常生活の様子を見てもらえた。	○	・老人会やサークル活動をされている方と協力し発表会など開催できるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市から派遣される相談員を毎月受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・学んではない。	○	・できるだけ学ぶ機会をもっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会・グループ連絡協議会の参加により学ぶ機会を持てた。 ・利用者との信頼関係・コミュニケーションに心がけ虐待のないケアに努めている。	○	・職員全員が学ぶ機会を持てるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・運営者を中心に関係者が契約を結んだり解約している。 ・入所時に施設の生活様式など日常的な質問・疑問・不安な事などは、対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議への参加。・日常生活の中で意見・不満・苦情等があれば個々に対応を行う。・日々の生活の中でコミュニケーションの時間を設けている。	○ ・職員全員日々のコミュニケーションを含めいつでも聞き入れられる体制をとっていく。・面会時家族の声が直接聞けるようコミュニケーションを図る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月一度家族宛に情報提供を行っている。	○ ・写真や行事予定表なども送付していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の面会・来所時に本人の言葉や家族からの意見や希望を聞いている。	○ ・家族とのコミュニケーションを増やしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・グループホーム会議を毎月一度行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・その日の状況に応じて勤務体制を臨機応変に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・開設当初はスタッフの入れ替わりもあり、利用者にも迷惑をかけた。・新たに入ってきた職員がいれば各利用者・家族に紹介をしている。	○ ・開設当初は不安定であったが、1年が経ち職員も安定しつつある。・今後も配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修や連絡協議会に参加し報告している。	○	・施設内での発表会や勉強会が必要。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・この地域の小規模事業者が集まり、イオンベルシティで利用者作成の発表会「おたっしゃ広場」を開催している。	○	・この小規模事業者同士で、研修会を開くことも検討している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・運営者は取り組んでいるつもりであるが、職員からは意見の食い違いが多くストレス軽減は難しい、との意見がある。	○	・運営者と職員との交流の場を設けていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の実績、勤務状況は把握しているが、向上心を持たせる方策には苦慮している。	○	・誇りを持って働けるよう模索していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・コミュニケーションの機会を多く持ち、言葉で伝えられない表情の変化を見逃さないよう努力している。・入所前は、ケアマネを通じてなるべく多くの情報を集めるようにしている。	○	・個々のニーズや訴えに添えるような時間を多く持ちたい。 ・ケアマネジャーとスタッフの連携を続ける。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ケアマネジャーを通じて家人からの情報を得るようにしている。 ・アセスメント・健康状態・医療状況・生活スタイルなど細かな基本情報を作成するよう心がけている。	○	・ケアマネジャーとスタッフの連携を続ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネジャーからの情報や家人との連絡により受け入れまでの情報を検討し、必要としていることの検討を行っている。	○	・本人・家人が入ったカンファレンスの機会を作る。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居に至るまでの実調を通して馴染みの関係を作り、家人・利用者ともに相談ができる関係作りに努めている。	○	・本人・家人が入ったカンファレンスの機会を作る。 ・悩みが共有できる関係作り(対話の機会を作る。)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の先輩として個々の昔話や教えなどを共感し共に過ごし・学び・支えあう支援に心がけている。	○	・その方から得た情報を職員間でも検討し変化を見逃さないようにしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・少しの変化や本人の訴えを面会時に伝えたり、月報にて伝えている急をようするときは、家人に電話連絡を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・月報を通して個人の様子を伝えている。 ・出来る限り家人に面会していただけるよう、はたらきかけを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・手紙を書いたり、電話が出来るよう関係が途切れないよう支援している。	○	・年賀状の作成なども検討していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・外食会・ボーリング大会など全員参加の場を設けている。 ・食器片付けや掃除など当番制でみんなが協力し合える場を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所された方が入院などされているときは、面会に行ったりしている。・関わりが必要と思う方については、相談や支援を続ける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの希望や意向を把握し実施するよう心がけている。(好みの美容室に行ったり、手芸・他科受診・買い物援助等)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・自宅での本人の立場や暮らし方など情報が得られているものや家族からの話などから把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・各個人の意向を中心に、有する力に応じて対応するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアマネジャーと相談し本人のADL・QOL向上に向けて取り組んでいる。	○	・家人の意向や必要な関係者などとも話し合う場を設け本人に何が大切なのかを見極め検討をしていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・何らかの大きな変化が無い限りほとんど継続	○	・本人の状態変化や希望・要望など聞き本人の状態に合わせた計画の変更が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・本人の発言や状態はカルテに記入しているが、介護計画の見直しには活かしてきれていない。	○	・共有した情報より計画書の見直しに努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・業務等であまり柔軟に対応が行えていない。	○	・要望や希望を聞き柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・行事としてのボランティアは来て貰っているが、他の機関との協力はあまりない。	○	・民生委員や他の機関とどう協力していけばよいか考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・施設内のケアマネジャーとは話し合っているが、地域のケアマネジャーや他のサービス事業者との話し合いはされていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・あまり協働していない。	○	・運営推進会議等の機会に協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の希望や症状・状態に応じて対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力病院の医師と相談し診断していただいている。	○	・医師とより良い関係を築き、何でも相談が出来る体制を作っていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護師を常勤で配置している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・看護師がケアマネジャーや病院関係者と連携し、スムーズな退院が出来るよう受け入れ準備を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・かかりつけ医や協力病院などから病状説明を行ってもらい、その情報をみんなで共有するよう努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・かかりつけ医・協力病院と連絡を取りながら検討・準備をしている。	○	・本人の希望が尊重されるよう検討・相談をしていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・十分話し合い情報交換に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報に注意しプライバシーを守るよう心がけている。	○ ・職員側から感じるのと利用者側から感じる違いに留意し声かけを行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・本人が選択できるようアドバイスを行っている。	○ ・その人に合わせた話し方や導き方をさらに検討していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来る限り本人の生活ペースに合わせた支援を心がけてはいるが、施設の都合や決まりごとなどに合わせてもらってる時もある。	○ ・職員が本人の希望を聞き入れられる場を作っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・毎月一度は、散髪を行っている。 本人希望により美容院に行くこともある。	○ ・馴染みの美容室に行くことにより張りがもっていただけのため、このまま継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・セティングや後片付けを中心に行ってもらっているが、一緒に食事はしていない。 ・ 誕生日会など本人の食べたいメニューを取り入れていっている。 ・ 嗜好は聞かざるべくまんべんなく食べていただけるよう声かけを行っている。	○ ・食事一連の作業も一緒に行えるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒や飲み物、おやつ、は楽しめるようにしている。たばこは火事の心配があるので控えてもらっている。 ・嗜好は日ごろから聞き取りをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・可能な限りトイレ(ポータブルを含む)にて排泄を行い気持ちよく排泄ができるよう工夫をしている。・必要に応じて声かけ誘導を行う。行動の変化を観察しトイレ誘導を行う。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・スタッフの人員配置により、日中入浴になっている。 ・拒否の方には柔軟に対応をしている。	○	・希望を取り入れ時間なども含めて検討していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・個々で入眠時間が違うため個々に合わせ支援を行っている。 ・必要な休息や睡眠時間は確保している。	○	・眠前薬や安定剤を使用しなくてもよい生活習慣を見直していきたい。 ・生活リズムの改善をしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・折り紙や、塗り絵・書道など室内で出来ることや、外出・外食などを取り入れている。	○	・個々に合った役割や興味のあることを知り、個々に合わせたレクリエーションや作業の検討をしていく必要がある。。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理できる方については、ある程度所持していただいている。 ・そのお金で買い物・外食など支払いが出来るように支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・近くのショッピングセンターや公園・お地藏様をまわりについている。月一度は外出計画をたて戸外にでていっている。	○	職員の都合で「外にいけない」と言うことをなくしていきたい。 個々の希望や要望をもっと検討・実施していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・希望を伺う事が難しい方もみえるため職員で判断してしまう。 ・特定の日(お盆や法事など)は家人と出かけて行くが、ほとんど行かれることがない。	○	・回数検討や行きたい場所の検討を行う。 ・家人と話し合う機会を持ち、外出ができるよう取り組みたい。 ・家人にも参加してもらえるような企画を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を使用することは個別には支援していない。・手紙などは支援している。	○	・規制はしていないのもっと気軽に電話などで連絡が取れるよう工夫を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会はいつでも出来るように対応している。・訪問があればゆったりした時間が持っていただけるよう工夫している。	○	・訪問者の方と楽しい時間が持てるよう検討していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・どこまでが「拘束」になるかは、把握・理解できていない。	○	・どこまでが拘束なのかを職員全体が話し・勉強していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・なるべく鍵をかけないよう取り組んではいるが、利用者の状態によりやむおえない時は、施錠をしている。	○	・施錠をせずすむ方法を検討していく必要がある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・申し送りや一日の状況をみて把握するように努めている。	○	・見守りを充分に行い、所在の把握に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個々に状態に合わせタンスやベットの位置を検討したりし危険回避に取り組んでいる。	○	・個々の状態に応じて危険でなければ所持してもらい職員が所持していることの把握に努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・薬の管理は職員にて管理している。・転倒防止に本人の足にあった靴選びをしている。・事故があった場合は、報告書を作成し全体に理解・把握していただくとともに再発防止に努めていく。	○	・報告書がでた場合は、再発防止について十分に話し合いそのことをふまえて実行していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・訓練はしていないが発生マニュアル・緊急連絡先をいつも見える場所に提示してある。	○ ・訓練を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域の方への働きかけはできていない。	○ 地域の人とも話し合う機会を作る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・面会時や入所時に本人の現状を理解しリスクの説明などを行っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・何らかの変化や異常の兆候に気づいたら話し合い、その時にあった対応を検討していく。・カルテや申し送り・口頭にて情報を共有し毎日健康管理に努めている。	○ ・利用者個人の状態を共有し緊急の対応ができるよう検討していく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・往診時医師より服薬の指導を受けている。・内服に変化があった場合は、様子観察を行っている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・朝、牛乳やヨーグルトをすすめ、水分補給に努めている。 ・排便記録をつけ便秘薬の服用を行っている。	○ ・運動不足解消・指導を行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食ではないが行っている。	○ ・自立している方でも見守り・支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂取量は毎食チェックをしている。・水分はこまめに摂取していただくよう声かけをおこなっている。・食事が少ない方は、医師や看護師とも話を行いカロリーがとれるよう捕食をすすめている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・入所時に感染症や血液検査・尿検査の実施 ・手袋の着用 ・手洗い、うがいを徹底し行ってもらう。	○	・感染症に対しての知識の共有・勉強を行う。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・管理栄養士の元で作られている。・調理前の手洗いや食器消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・周囲を花壇にしてあり、シンプルな作りになっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季にあわせた飾りや、花を飾ったりしているが、生活感はあまり出せていない。	○	・過ごしやすい雰囲気・環境作りに取り組みたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間では一人になれる場所はないが、個々に気の合う仲間同士集まっている。	○	・一人ひとりの居場所が出来るような工夫をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人が使いやすく親しみのあるものを使用させていただく。・カーテンや家具など本人が気に入っているものや馴染みの物を持ってきてもらっている。	○	・今後も馴染みのある家具の持込や本人の気に入った物の使用により居心地の良い場所作りを行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気扇の設置。・季節に応じて室温の調整・除湿等行っている。・臭いのこもる所は消臭剤を設置している。	○	・今後も利用者に合わせた朝の換気や室温調整を行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個々にあった福祉用具を使用し自立した生活が送れるよう支援している。・段差の無いバリアフリーの居室、フロアがありトイレの手すりや車椅子でも使用できる高さの洗面台がある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・個々の能力に合わせ混乱を避けるよう努力している。・失敗しても本人が納得するよう支援している(最大限フォローをしている。)	○	・今後も失敗を失敗と思わせない工夫に取り組む。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・プランターに花や野菜の種を蒔いて育てている。洗濯物干し場があり活用している。	○	・畑などがあるとよい。・もう少し何らかの方法で活用していきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①有料老人ホーム並みのゆったりとした居室で、ゆとりのある生活、個々に合わせた生活支援をしている。
 ②体調の変化など医師と直接相談しながら健康面の強いサポートをしている。
 ③孤立した施設ではなく「家」・「家族」として、地域・職員と過ごしていただいている。